

里中満智子氏に聞く――

自由で独特な大阪に育まれた 漫画家としての歩み

歴史の真実に迫って壮大な物語を編みあげる漫画家の里中満智子さん。作家活動のかたわら大阪芸術大学教授をはじめ、世界の漫画文化のリーダーとして活躍する里中さんに生まれ育った大阪への思いを語っていただいた。

東京に住んで気づいた大阪の特異性

私の両親はお互い片時も離れていたくないというくらい仲のいい夫婦で、毎週日曜日になると私と妹を連れて外出して、父が家族写真を撮るといった生活でした。

天王寺動物園、大阪市立美術館、お花見、堤防や公園にお弁当を持ってピクニック、百貨店の屋上遊園地や買物……生まれたのも難波宮を北に仰ぐ場所にあった病院ですし、私の中に大阪のあらゆる場所や出来事がインプットされています。

それから大阪の味。小学校3、4年生の頃から体の弱かった母に代わって財布を握りしめて市場に買物に行き家族の夕食を作っていましたので、大阪の食べ物については旬の知識から旬いまで五感が覚えています。

そして大阪人同士の会話。二人寄ればボケとツッコミ。一日に一度は誰かを笑わさないと学校からの帰り道、なんとなく空しい気持ちになる……私もそんな大阪の子どもでした。

東京に住むようになって、私を含めて大阪の人たちのサービス精神にあふれた会話や単刀直入なコミュニケーションの仕方が独特だということに気が付きましたが……。

歴史遺産の公開は精巧なレプリカで

長柄豊崎宮に始まる大阪の中世以前の歴史を、一般の人に理解してもらえる実証的な手がかりはとて少ない。さらに近世・近代の遺産も震災に遭い、いまの人たちに大阪の歴史文化の厚みを伝えるのは難しいと思います。

私は有形の歴史文化遺産はレプリカでよいという考えをもっています。たとえ本物があっても公開展示すると劣化が避けられません。それならできるだけ精巧なレプリカを作って見てもらえばいいと思います。ただし、その際には、原形と発掘された時の形の両方を作って展示してほしいですね。

難波宮も史実に基づいて忠実に再現した建物を建てて、職員の人たちは当時の服装で働いてもらうのはどうでしょう。

それにつけても今回、児童文学館が閉鎖されるのは惜しい。図書館扱いになって貸し出しに応じるとなると本が痛みます。おなじなら博物館扱いにしてほしいですね。知事が頑張っておられるのはわかりますが、こんな時にこそ長い目で見て財産となるものを残



里中満智子 (さとなか まちこ) 氏

1964年、高校2年生の時に「ピアの肖像」で第1回講談社新人漫画賞受賞。以来、「あした輝く」「あすなろ坂」などヒット作多数。1983年より取り組む持続天皇が主人公の『天井の虹』は、現在21巻目を執筆中。2006年文部科学大臣賞受賞、日本漫画家協会常務理事。大阪芸術大学キャラクター造形学科教授。

大阪市内赤穂ルにて

すべき。限られた予算で工夫するのがほんとうの知恵だと思いませんか。

マンガは世界共通の平等な文化

中学生の時に読んだ万葉集が私の漫画家としての原点です。女性は自分の考えや思いを、男性も自分の弱さを、隠さずに歌にしていますし、処刑囚に同情する歌や税金の厳しい取り立てに国を恨む歌もあります。

当時の人々の正直な声が現代の自分たちとほぼおなじであることに感動したんですね。1300年ほど前の歌集なのに身分的排除や検閲的なことがされていません。男女も同列、農民、豪族、ホームレスの歌もあります。その意味でも万葉集は私の指針です。

10年以上前に日本の漫画家が集まってマンガジャパンというボランティア団体を創りました。その活動のひとつとして、私たちは近い国の人たちと気持ちよく付き合っていきたいという思いで、東アジアの漫画家たちと交流を重ねてきました。

マンガは世界共通の公平で平等な文化であり、世界中の作者は皆平等で、誰が偉いでもない」と主張してきました。幸い中国の人たちもマンガやアニメに対しては日本をとても尊重してくれています。

マンガとおなじように食も自然発生的に浸透した文化。自由で公平な文化です。関西に来る外国人も旅慣れた人は大阪に宿を取ります。京都・奈良・神戸、どこに行くのも便利です。おいしいものを食べて、ホッとできると言いますね。大阪とマンガの文化は通底していると思っています。(談)